

第22回市民ふれあいトーク—地域力を活かすまちづくり—

要約版

日時 平成22年12月18日 10:00~11:30

場所 連島南公民館

《市長》

皆さんおはようございます。今日は大変多くの皆さんに市民ふれあいトークにご参加を賜りまして誠にありがとうございます。

最初に今の倉敷市、鶴新田連島地区の課題や市の事業の状況等についてお話をさせていただきまして、それから地域の皆様からご意見・ご質問等お話を頂ければと思っております。

年末近くなって来たわけですが今年、倉敷市として非常に嬉しかったことがいくつもございます。年の前半では、連島出身の高橋大輔選手がオリンピックで銅メダルを、世界選手権でも金メダルを取られまして、倉敷市に凱旋して下さって市民の皆さんとパレードでお出迎えさせていただいたことが非常に嬉しかった思い出でございました。今サンピアが加計先生のおかげで復活をいたしました。一時期閉まっておりまして、高橋選手も非常に心配をしていたわけですが、その中で優勝、銅メダルということで、パレードが始まる前も、終わった後にも「本当にメダルを取って嬉しかった」と言われておりました。その後テレビ番組等にいくつか出られてお話をされたんですけど、皆さん方から質問で「どうでしたか」「何が一番印象に残りましたか」と聞かれたら、いつも地元で優勝の凱旋パレードをしてくれたことだと全国のテレビでも言って下さっておりましたので、倉敷市の皆さんの気持ちが全国にも伝わっているのかなと思っておりました。

そして年の後半で一番嬉しかったことは、ここからすぐ近くの山にあります芸科大で教鞭を取られた鈴木章先生がノーベル賞を取られたことだったと思っております。これも加計先生の「先見の明」だと思いますけれども、鈴木先生を教授として迎えられまして、ここで8年ほど教えられましてノーベル賞を取られました。山陽新聞で鈴木先生が倉敷市についてコメントを言われた中で、「自分がこちらで教えておった中で、倉敷市は本当にいい所なのでこっちの方へ家を買って住みたいと思っていたが、実家が北海道の方なので帰らないといけない事情があって帰ったんだ」と言って下さったので、非常に嬉しいと思っておりました。もう一つ年末にかけては、この前ソフィアローレンさんが倉敷市に来て下さりまして、本当に嬉しかったんですが、テレビを見て下さった方どれくらいいらっしゃいますでしょうか。

一般の日曜日に山陽新聞さんでも二面で非常に大きく取り上げて下さって、テレビでも一時間番組でして下さったんですが、世界の女優のソフィアさんが倉敷市に来て下さりまして、「本当に倉敷市はいいまちだ」、「住民の皆さんの気持ちが自分に伝わって来て本当に嬉しかった」と言って下さっておりました。ソフィアローレンさんはこれまでに日本に3回来られたことがあって、いつも東京と京都とかばかりだったんですが、今回は日本の中で高松宮殿下から勲章をもらわれたのと、倉敷市に訪問されたのがこの滞在中での仕事ということでした。東京でイタリア大使館の歓迎レセプションがあったということでもございましたが、東京の方の行事はちょっと体調も悪かったということで15分ほどで帰られたと聞いておりますが、倉敷市の方は一晩泊まれまして、大変喜んで帰って下さいました。

ソフィアローレンさんのことについては後日談がありまして、今スイスへ住まれていて、東京からジュネーブへ飛行機で帰られる時に、私の知人の友達の方と一緒に飛行機に乗り合わせたそうなんです。その方は岡山の方なんですけど、パッと見たらソフィアローレンさんが居るので「自分は日本人だ」と。「今回日本へ行かれたんですか」と聞いたら、なんとソフィアローレンさんが「私は倉敷市という所へ行ったのよ」「それがいい所だったのよ」と全然知らない日本の方に言って下さったそうなんです。ですので、ソフィアローレンさんが倉敷に来て下さって本当に嬉しい思いがいたしますし、そういうことを通じまして、われわれの魅力を全世界にも知ってもらえるように頑張っていきたいと思っております。

連島地区のことにつきましては、本当に日頃から皆様にいつも大変お世話になっております。地区の中では今一番レンコンが忙しい時でいらっしゃると思いますけれども、夏にはゴボウ、冬にはレンコンと連島の魅力を発信していただきまして本当にありがとうございます。私は、平成15年から市役所の方に勤務しておりまして、この連島鶴新田地区で最初に一番大きな仕事だったのは、平成16年の時の台風災害の時の浸水で、児島や玉島と違って一応川の所で堤防もポンプもあると聞いておりましたが、急に浸水になったということで、それまでの市の対策という面でもまだまだ足りなかった部分があるわけですが、とにかくこの連島の浸水対策を何とかしないといけないと強く思ったわけですが、それで私は一回総務省の方に帰りまして、今度は総務省の方から応援しようと思っていたわけですが、また、こっちに帰って来ることになりました。その時に各地区の大きな課題ということで、こちらの方に伺いまして一番最初に視察させていただいたのが三角池の遊水池でございました。

一番大きいことはやはり浸水・防災対策という面で、ここの池を何とかしないといけないと思っておりましたし、地元在市議会議員や県議員の方からも何とかこの対策が出来ないものだろうかと伺っていたわけですが、私が市役所におります時から、遊水池の管理が県だという話をずっと市役所の中では聞いており、倉敷市の方では当時県の後を付いて行くことになっておりました。浸水対策の話をいろいろ聞く中で、何十年もそれが課題になっていることを伺いまして、何十年も県だ市だということをしてはいけなくなりました、一つの大きなきっかけが国の事業である水島と玉島を結ぶ橋というのが出てきました。そして平成21年度にこの国の橋のことが決まりました。倉敷市としては地域の住民の皆さんたちの安全のために、安全というのは浸水のことと、今水玉ブリッジと霞橋しがなくトラック等も随分通っているので、交通の安全の面ということがあって、それを分けたいということが一つあるということ。それから広く岡山県、日本の産業のことも見ましたら、水島と玉島の地域の産業が発展していくことが日本の産業の大きな原動力になると思っております、国にも何回も産業と防災と両方のことをずっと言ってきましたら皆納得して下さって、その予算が付くことになりました。倉敷市の防災、地域の交通・産業のこのために、水島と玉島を結ぶ橋は必要だと国の方も思ってお下さるようになったのが、ここ何年かの中で一番嬉しいことだったと思っております。

ちょうど私もこちらに参る時に通って来ましたけど、今年の夏くらいからだと思っておりますけども、橋の部分の三角池の浚渫工事をしておったと思っておりますけれども、その間に今倉敷市の方で来年度から本格的な浚渫を始める設計をしております。だいたい平成26年くらいまでに浚渫をしながら、来年度からは橋の部分の三角池の中の橋げたの工事もだんだん

始まって来ると思います。全体がだいたい平成27年度くらいに進むように今計画を国の方でもしていただいております。国も財政が厳しいということで、「公共工事の削減」といっても言われるのがわれわれが一番心配している所であります。「ハードからソフトへ」と言われますが、「ハードでも必要なものは必要なんだ」と言っているわけで、今の所何とか予算の大幅削減はなく進んでおりますけども、まだまだ予断は許さないので毎回しっかり言っていないといけないと思っておりますが、必要なものはしっかりやってもらわないといかんという姿勢でやっていきたいと思っております。この点については地域の皆さん、漁協の皆さんを始め大変多くの皆さんに心配をお掛けしてご協力もいただいておりますのでちゃんと進んでいくように、それから市の方の新しいポンプが付きますのでポンプの方も増強を。この前、県と協定を結んだ中では県のポンプと今度新しいポンプとで、どっちの管轄がどうだこうだとなってもいけないので、新しいポンプを作って、作る費用は県からもうらうんですけど、最終的には市の方にいただきまして、市の方でちゃんと管理できるようにと思っております。

この遊水池が今のようにならずにずっと浅くなって、あまり遊水池としての機能が発揮されていないものじゃなくて、ちゃんと浚渫もして大雨や災害が来そうな時には、ポンプで予め水を随分抜いて遊水機能がちゃんと発揮できるようにというのが倉敷市としての一番の願いですので、頑張っていきたいと思っております。これが私の連島地区の大きな仕事でございますので、市議会の方と一緒に進んでいかないと進みませんので、特段に頑張っていきたいと思っております。これが今連島の地区の中で一番大きな課題、進んでいる事業だと思っております。

今、倉敷市の大きな全般の課題といたしましては、一つには皆さん心配を下さってございましたチボリ公園の跡が、今年本格に姿が決まってきたというのがございました。景気が悪かったものですので、クラボウさんも次の借り手が見つかるかどうかと非常に心配をされておりましたが、何とか倉敷発祥の地なので駅前をすっからかんにしておくわけにはいけないといういろいろ募って下さって、イトーヨーカ堂さんと三井不動産さんが組んで新たにすることということが決定されました。同時に今度新たにヨーカ堂さんの計算では、だいたい800万人くらいの方が来られるんじゃないかと聞いております。今イオンの方がだいたい年間1300、1400万人くらい延べでいらっしゃるということです。駅前なので、随分電車で来られる方もいらっしゃると思うんですが、渋滞対策が非常に大事だと思っております。もちろん全く混まないということではなくて、地域の皆さんにもご迷惑をかけると思うんですが、とにかく駐車場をしっかりと確保すること。それから市でできること、寿町の東の所の踏み切りを今JRさんの方をお願いをしまして、来年の開業の時期までにもうちょっと広げて下さいということと、倉敷市の土地区画整理事業の方ももうちょっと交通にうまくいくようにすることを今やっております。

倉敷市が倉敷駅の前で行う内容でございますが、大型の複合商業施設が来るということでありまして、やはり倉敷市内全体の活性化に、倉敷の駅の南の商店街や倉敷市内全体に観光客の方等皆さんが行っていただけるようにしないといけないと思っております。その中の一つとして、倉敷市としては駅前に緑道の公園を作ることによって今工事を進めておりまして、真ん中に流れております倉敷用水の両幅を岡山の西川緑道よりもっと良くしたいと思っております。幅はだいたいそのくらいですけど、西川緑道よりもっと緑があって、木のデッキのようなものをしまして、チボリがあった時に年間パスポートを買われまして

公園の中をよく散歩をされていたと伺っておりましたので、その緑道を散歩していただけるようにと、片道300メートルですので両方行って600メートルと。それから今周りが道路に直接繋がっている所があって、外がぐるっと行けなくなっておりましたので、イトーヨーカ堂さんと交渉しまして、中の方の土地にも入って散歩ができる所を市道とヨーカドーの道と合わせて確保しました。ちょうど外が1.4キロになっております。ですので、この間の600メートルを八の字に行ったらちょうど2キロで、地面に例えば「ここから何百メートル行きました」と書いたりしてお散歩コースにもなるような倉敷の駅前の1ヘクタールの公園でございます。確か遊水池が8.5ヘクタールだったと思うんですけど、それよりは随分小さいんですけど、1ヘクタールの公園をその緑道に付けて整備していこうと思っています。お金の方もクラブウさんから1ヘクタール譲っていただくのに景気もちょっと悪くなっておりましたので、整備費用等を含めまして通常より少し安い10億円ちょっとでございました。整備費用とかを含めまして合計で16億円くらいかかる整備費でございますが、国の方から緑道・公園整備とかいろいろ整備に関する補助金を引っ張って参りまして、16億円が市の自腹の分が2億円台くらいで済むように遣り繰りをしていけるような思いでやっております。来年のだいたい今時分かクリスマス商戦等の前には出来るようにしたいと言われておりますので、それくらいまでの時期に進むのではないかと考えております。それが倉敷市の倉敷地区の方の大きな課題。

水島全体としましては、今連島南地区の安全安心のために消防団が機庫を新しく造っております。リバーサイド病院の所からすぐ近い所へ今建設中でして、来年の1・2・3月とかにはできるように今運んでいる所であります。これまでこの近くでは連島分団しかなかったわけでございますが、連島南分団ということで新しく機庫も車の方も来ますので、火事がないのが一番ですが、安心していただけるようにと思っております。

もう一つは水島サロンが今年一年間休んでおりましたけれども、県の方から改修のお金をいただきまして、今度の4月からまたオープンを、東の方の大きなコミュニティサロンの大きなフロアが使えるように、プール等についてもだいたいこれまでと同じような形で使えるように今改修をしております。特に水島地域の皆様から何とか残してもらいたいということで、ちょうど水島国際ホテルも閉館になりましたので、水島地域の活性化の一つになるように頑張っていきたいと思っています。もう一つ倉敷市内全体の環境学習の場所にもなるようにと、旧水島サロンの跡を使っていきたいと思っています。

当地区では子育てサロン等につきまして皆様に大変お世話になっておりますし、芸術科学大学の学生さんたちも、もっと地域の皆さんたちの活動に参加したいといつも言って下さっておりますので、そういう面等ももっと頑張りたいと思っています。皆様の方からもいろいろご意見を頂ければと思っておりますので、よろしくお願い致します。

《参加者Aさん》

私の周りの10代・20代の友人たちもまだまだ「市民ふれあいトーク」のことを知らない人が多いので、今回私が参加することで何か若い人の参加の増加に繋いで行けたらと思っております。

私は倉敷市で結婚して今育児をしている主婦でして、また来年度に就職活動を考えています。一点目の質問は、今現在の倉敷市での待機児童の状況。変動はあると思うんですけども、待機児童数と保育園の需要、収容できる人数と比べて十分足りると言える水準な

のかということと、二点目が本年度もちゃや保育園ですとか子育て支援の政策が進められていると思うんですけども、来年度も働く女性を支援する政策として何か考えていることがありましたら教えて頂きたいと思います。

《市長》

子育てのことを私もお話したいと思ってはいたんですけど、今話に出ました茶屋町のちゃや保育園が今日10時から開園式をしております。本当は私も行かないといけなかったのですが、今日はこの連島南公民館でのふれあいトークを前から決めていましたので、向こうの方はここに来る前に9時から行って参りまして、拝見をしましてお祝いを申し上げて来ました。倉敷市の待機児童の数、今現在はちゃや保育園が定員60人で今度1月からオープンするんですけど、今現在は10月末か11月末ですけども、数の上では50人くらいなんです。今度ちゃや保育園がオープンすれば60人なので数の上では一旦待機児童という形はなくなることはありません。去年から今年にかけて小谷かなりや第二保育園と今度のちゃや保育園とで、「子育てするなら倉敷で」という私の公約の一番に掲げておりますので、一生懸命やって来まして保育園の開園をしております。ただ待機児童数という所が、皆さんの預けたい保育園の場所が仕事の関係等があって、「ここに行きたいんですけどもここはもう満杯です」と。例えばちゃや保育園であればまだ空いたばかりですので入れるんですけど、「遠いから自分の希望はこっちです」となると待機ということになって来るんです。ですので、市としてはまず数の上では待機をなくして後はそれぞれの園で、例えば時間延長や休日保育の面を充実をしていただくことを今市の政策としてはやっているんですけども、特段に保育園、それからこれも私の公約ですけども児童クラブの面をしっかりとやっていきたいと思っています。預けたい親御さんが今まで三年生くらいまで何とか入れるか入れないかくらいだったんですけど、何とか6年生まで行かれない場合には入っていただけるように拡張する方向で今やっていますので、来年も引続き力を入れていきたいと思っています。

私の最大の公約で残っておりますのが、小学校6年生までの子ども医療費の助成というのがあります。それを来年度の予算で今どこまで行けるかを計算して、来年の初めくらいの時期には見通しが出来ればいいと思っているんですけど、まだそこまで行けるかこの場では申し上げられないんですけど、子育てという面ではそういう点。

それから、小児用肺炎球菌ワクチン、インフルエンザB型ヒブワクチン、それからもうちょっと大人になってからですけど子宮頸がんのワクチンを中学校1年から高校1年までの女子生徒に対して全額公費負担で打っていただけるという分を、つい先日議会で通してもらいました。確かどこよりも早く実施となっていると思いますので、いろんな面から子育て支援に頑張っていきたいと思っています。

だんだん育っていく中で子育てのサロン、すくすくサロン、せいほサロン、地域での子どもさんたちと一緒に育てて下さる皆さんたちと一緒に努力を進めていきたいと思っています。

《参加者Aさん》

今預けたい所に保育園がない場合があるという話があったんですけど、今倉敷市の公立の保育園で広域保育をされているのが曾根保育園という一箇所だけなんですけど、今後は

岡山市と倉敷市の境目の所等に広域保育を認めている保育園ですとか、委託保育という形で倉敷市に住む女性が近隣の市で働きやすい政策をしていただけたらと思っています。

《参加者Bさん》

私が一番申し上げたいのは、地域の調整区域ということがこの鶴新田にはあるわけです。私たちが住んでおります鶴新田の地域で、下水道が入っていません。これが非常に問題になっております。そこで市の下水道課にお電話して確認をした所、鶴新田は調整区域の所では最終になるという返事をいただきました。私たちは一日でも早く入れてもらわないと困るわけです。「地域力を活かすまちづくり」ということでお願いしたいと思います。

《市長》

下水道の整備計画の状況は、いっぺんに管が飛んでいくわけにも行きませんので、今繋がっている地域の方からだんだん行かないといけないんです。今まず平成27年度までの計画の所で、市街化区域の所をまず重点的に行きましょうというのがあります。その次に調整区域の方にだんだん広げていきましょう、管が伸びますからということなんですけども、調整区域をする中で一番最後と言ったわけではないと思います。まだ調整区域の所の順番が決まっていないと思うんですが、調整区域をする中で一番最後には多分ならないと思いますが、調整区域の中でのなるべく最初の方に行くように頑張りたいと思いますけれども、お話を頂きましたのはよく分かりました。ただ、市の全体のお金もありますので順番になりますのでしばらくお待ち下さい。真備・船穂の方も合併をして、やっぱり下水の整備の方に要望が高いんです。ただ真備の方までまだ大きな管が行っていないから急にそこからとはなかなか出来ないというのがあってやっぱり順番にはなるんですけど、しっかり要望をいただいたことは分かりました。

《参加者Cさん》

「地域力を活かすまちづくり」と書いていますけど、(まちづくりは)やはり、このまちが好きでなかったらできないと思います。それには連島の歴史や文化等を理解していただいて、皆で頑張っていこうと。一つは鶴新田というのは亀島新田があって鶴新田。亀があるから鶴新田と私は思っていたんです。ところが古文書を見たら「鶴島」というのがあるんです。そういうことはどなたもご存知ないんじゃないかと。

《市長》

鶴島は場所はどの辺り。

《参加者Cさん》

あの辺りです。そういうことも私たちは理解していかなかったら駄目だと思うんです。方言についても連島には独特の方言があります。島ですから。よそから人が入って来るとすぐ言葉遣いで分かるわけです。独特の言葉があったが、今ぜんぜんなくなってしまいました。というのが、昭和30年後半に水島にどんどんコンビナートができ、県外から人が入って来る。そして子どもたちが標準語を使わなかったらお友達と話ができないということで、岡山県下でもいち早く標準語が入った所なんです。「ドンドン」というのも、方言の

一つなんです。

「地域力」というのは好きでなかったらできません。水島でも「好きです水島」というイベントをしていますが、あれは大成功なんです。これからも今日来ていただいている女性の方に本当に力になっていただけるんじゃないかと思しますので、こちらからもお願いし、市の方もこれを一過性でなくて毎年連続にお願いして、こういう機会があれば「こういうことがあったよ」と広がっていくんです。これは大切だと思います。ここへ住んで良かったと実感したいと思っております。

《市長》

連島が倉敷市内で一番標準語が進んでいる地域。確かにそうかも知れませんね。確かにコンビナートで働きに来られている方の交流が一番多い地域になっていると思いますし、芸科大さんもあるからいろんな所からの人が交流して活気が生まれるというのも大きいんじゃないかと思えます。今「好きです水島」フェスティバルの話が出ましたけど、水島サロンの後の所も今度「環境交流スクエア」という名前ですけど、これまで階段ばかりで危なかったものですので、全部平地にしまして外の方にもエレベーターを一つ付けました。芝生広場を随分増やしまして、そこで「好きです水島」フェスティバルとかのイベントもやっていただけるようにと今整備をしている所ですので、ぜひご活用頂きたいと思えます。

今日、夕方5時半から6時の中央公園のイルミネーション点灯式に私も行きますけれども、水島の大きなクリスマスツリーの点灯式「水島を元気にする会」の皆さんたちが頑張ってお下さっております。「地域力」というのは本当に自分の地域を好きで、活性化してそれを発信していきたいという思いだと思いますので、皆さんと一緒に頑張りたいと思えます。

《参加者Dさん》

新大橋架橋に基づきまして新排水ポンプの設置ということですが、鶴新田地域は非常に河川の汚染が進んでおります。ヘドロ化です。それまでにヘドロの除去をぜひお願いしたいと思います。浅桐産婦人科さんの前から鶴新田会館までの区間は約300メートルありますが、夏場水草がたくさん生えまして、そこに大きい鯉や鮒が上がって酸欠で死んでしまい、悪臭を放ちます。ヘドロが凄く溜まっております。それからずっと鶴新田会館までと、浅桐産婦人科さんの南側農道15号線からザ・ビッグまでの排水溝も非常にヘドロが溜まっております。我々もボランティアで何度かゴミを取ったりしましたが、ヘドロに埋まってなかなかゴミが除去できないんです。この辺りの除去をぜひお願いします。ヘドロが大人の腰の辺りまであるんです。過去にはお子さんも転落して死亡事故も発生しております。地図を持って参りましたので、お渡しします。よろしくお願いします。

《市長》

このレンコン畑の前のマックスバリューの所の話ですかね。腰まであるようなヘドロだったら結構大変かなと思ったんですけど、いずれにいたしましても、地域の土木委員さんとよく状況も聞きまして必要な対策を何かしら考えていくように、まずよく相談をさせて頂きたいと思えます。地図まで頂きましてありがとうございました。

《参加者Eさん》

市長さんもそうですけど、私も「倉敷大好き人間」でございます。

先日参加させてもらったんですけど、「高梁川流域連盟」がございまして、霞橋から船穂橋くらいまで沿線の缶等のゴミ拾いをやりました。初めて参加したんですけど、物凄い人で車を置く所に困るくらい大勢の家族連れで、お父さん、お母さんが小学生くらいの子どもを連れて休みの日に朝早くからこんなに大勢の人が来るということで、僕は凄く感激したんです。そんなことはあってはいけませんけど、阪神大震災があった時も倉敷は大したもんだと感心したんですけど、やっぱり「地域力」というのはこれから大切なことなので、ぜひお願いします。

12月3日の新聞で倉敷市新行革プラン素案というのが出まして、非常に分かりづらいので、もう一回市長の方から説明をして頂きたいです。5年で16.9億円の目標ということで、われわれ市民は例えば広告収入を拡大して市の収入にするとか、議員の定数を減らすとかは分かりやすいんですけど、目標の16.9千万とか経費削減を19億とか書いてますけど、市民に分かるように説明をお願いします。

《市長》

今回の倉敷市議会で決まりました一番大きなものは、平成23年度から10年間の倉敷市の計画「倉敷市総合計画」というんですが、10年ごとに1回大きい計画を作るので、前作ったのは10年前なんですけど、今回10年間の計画を立てました。倉敷市は高梁川、瀬戸内海に囲まれておりまして、コンビニートさんなどを始め多くの会社、地域の皆さんの力があるということで、皆さんの思いを込めて「自然の恵みとひとの豊かさで個性きらめく倉敷」を作っていきましょうというのが大きなテーマになっております。

それを実現していく中で新行革プランを5年ごとに作るんですけど、今後の5年間の行革プランで16.何億円というのは新しく年度年度に発生するもので、だいたい3年間で累計50何億円くらい行革をすることによって、新たな経費を生み出しましょうというのがその計画のプランなんです。

例えば、市が直営で施設の運営をしていますと、職員さんの勤務時間等の関係もあって9時から5時までとかなって使いにくい施設もあるので、それを民間の会社の方に委託をできる仕組み「指定管理者制度」をすることによって時間にもっと余裕ができたり、民間で入札をして取って下さるのでお金がちょっと安くて済むというのを進めていきましょうということや、市の広告収入をもっと増やすようにしましょうということだったり、それから市役所の職員数の面もあります。倉敷市の職員数は決して物凄く多いわけではないんです。ただ団塊の世代の皆さんたちがあと5年くらいで退職される方の人数が凄く多いんです。ですので、その多い所の人数を退職された分と同じ分だけまた採用しましたら、また何十年かしてそこだけ随分多くなるようなことのないように、平均して行政サービスを提供できる人数を確保するという観点で人数の見直しをしているんです。そういう分で何十億円かの予算の削減ということ、もちろんその分民間に委託するものも多いんですけど、それによって50何億円くらいを生み出すことになっていまして、新しい施策をしたり、浚渫のお金を生み出すのがこの行革プランになっています。

せっかくの機会ですので皆さんにお願いをしたいんですが、前回の市議会でも言ったんですが、最近ゴミ袋のことで質問を受けることがあります。総社市も岡山市も皆ゴミ袋が

有料になっていますので、倉敷市はどうなんだろうかと主婦の皆さんから聞かれることが結構多いわけでございます。私の公約でもあったんですけども、環境リサイクル型社会を進める、つまり「ゴミの堆肥化を進めましょう」「コンポストで堆肥化しましょう」と。それから「ゴミの乾燥、もしくはゴミのネットを絞って水を減して下さい、紙や新聞の分別をしてゴミを減らして下さい」とずっと皆さんにお願いしておりました。他の全国の所は普通何もしなかったらゴミがやっぱり増えています。ところが、倉敷市では今無料なんですけれども、3%くらいずつ今減っているのです。本当にありがたいことなんです。岡山市等は有料にしたら一回がぐっとやっぱり減ります。ただその後慣れてきたらだんだん平行になって上がってくるようになっていっていますので、私の思いとしてはこの前市議会でも言ったんですけど、皆さんの協力をいただいて、ゴミは減っている間は有料化は避けたいと思っています。ただこれが上がってきたら有料化の検討を目前にしないといけなくなるかと思いますが、私もなるべくゴミは無料の方がいいと思っていますので、皆さんの協力をいただいてゴミを減して無料で続けられる良い市の見本になりたいという思いでありますので、ぜひ皆さんにお願いしたいと思っています。

《参加者Eさん》

今と全然関係ない話で、市民ふれあいトークやってますよね。以前市長にお願いしたんですけど、今日も若い人がたくさん来られていますけど、やっぱり土曜日だと若い人もたくさん出られるし、これを必ず定着して頂くようにぜひお願いします。

《市長》

平日の夕方にさせていただくことも多かったんですけども、こういう意見もいただいておりますので、土曜日や日曜日に開催を増やしていきたいと思っています。

《参加者Fさん》

私がお話したいのは2点ございまして、一つは一番心配しているこの地区の防災の件のことです。もし堤防がどうかなった時のハザードマップが倉敷から出ているはずなんですけど、この地区は6メートルくらい浸水するそうです。そうしますとこの地区に於いて、避難場所が一番問題じゃないかと思っているんです。避難場所は連島の小学校になっているはずなんですけれども、あそこの場所にこの辺りから行くことになれば凄く危険な状況ではないかという気がしているんですけど、避難場所を一つ頭に置いて欲しいんでございます。

もう一点は、今度緑地公園を造られる計画があるんですけども、そこに少しだけスペースをいただきまして、京都の丹波でしたかに健康のために裸足で小石の上を歩くような施設があるんです。小石の上は歩けば普段やってなかったら凄く痛いんです。だけど慣れてくれば足のつぼマッサージとか、健康に寄与するんじゃないかとは私は思っているんです。もしそういうスペースがございましたら公園に限らず市の施設に少し、お金も維持費もいらないうえから、皆さん利用されるんじゃないかと思っているんですけど、少し心置きにしておいて下さい。

《市長》

今防災のハザードマップのことを言って下さいまして、これは非常に大切なことです。連島地区でいつ配布したのか今覚えていないんですけど、ハザードマップは広報紙と一緒に多分この一、二年の間に一緒に配布になったと思います。浸水の色に分けて「ここは3メートルです」「ここは5メートル」「避難場所がここになってます」というのが塗ってあります。これは国土交通省の方で基準がありまして、一回兵庫県豊岡の方で物凄い川が切れましたでしょう。一齐に何箇所も堤防が切れたときの浸水を前提にその地図は作るように国の方からのお達しで来ているんです。それで連島地区も結構色が濃くなったのですが、高梁川の堤防が何箇所も何箇所も切れた時に高梁川の水位とこちらの水位が同じように上がって来たら確かにほとんど倉敷市内は浸水します。ただ、普通はそうはなりません。普通は切れ出したらそこを集中して補修して切れないように最小限にしますから、そういうことはないんです。ただもちろん色が濃い方が浸水の可能性は高いですから、日頃からよく気を付けて下さいということがその地図の意味する所なんです。ですので高梁川で大水が起きたら直ぐに浸水するという事ではないので安心して頂きたいのですが、この地区であれば連島南小学校とかが避難場所になっていると思います。その時にどのくらいの浸水なのか、連南小はもちろん1階だけじゃなくて2階もありますので、上に避難いただくような大水なのか芸科大の山の方に皆で逃げて行かないといけないのか。どっちかというのは地域の防災用のマイクでお知らせします。今毎月1日に夕方5時半から鳥の音がマイクから聞こえて来ると思うんですが、ご存知ですか。音に気づいた人が少ないですね。浸水が起りまして、私が取り組んだ仕事なんですけど、もちろん広報車も走りますが、各学校にスピーカーを付けまして、本庁の方もしくは水島支所から必要な場合には、その地域の避難勧告をそのスピーカーから出るように、特に16年の時に浸水があった連島・児島・玉島地区には先に付けているんです。そこから毎月1日の夕方5時半に、最初からサイレンみたいだと皆さんびっくりされたら困るので、鳥の「びよびよびよびよ」と約30秒流しているんです。ちょっと音が小さいですかね。可動実験も含めましてやっているんですけど、あまり聞こえないというお声もいただくので、「こちらは倉敷市防災危機管理室です。今毎月の定期音のチェックです」などとやった方がいいかと今の人数を見まして思いました。

《参加者〇さん》

マイクを設置していることも知らないです。

《市長》

マイクはだいたい500メートルに1個、声を通る所等もいろいろ実験しているんですけど、ここだったら確か連島南小学校に設置していると思います。その上の方からスピーカーで4方向で出るようにしていますので、お正月には確か流さないと思いますので、今度また2月の1日の夕方に流れると思いますので、耳を澄ましてみて頂ければと思います。防災のことはそういうことでございます。

健康のことについてはいろいろ検討させて頂きたいと思います。

《参加者Gさん》

介護保険の制度ができてもう10年。その両輪として成年後見制度も10年来まし

た。倉敷市の権利擁護センターの設置を今立ち上げをしようと社協さんや司法書士さんとかと一緒にやっているんですが、その件について一年以上経ってきているんですが、利用制度について予算とかをどのようにお考えになられているか、ちょっと心配をしています。

《市長》

成年後見制度がなかなかまだ進んでないというのがあると思います。弁護士の先生方を始めとしてもっと広めていかないといけないということで、例えば権利擁護センターの設置等の機能をもっと作らないといけないんじゃないかということを今市の方にもお話をいただいて、三宅副市長がトップになっていろいろ相談させていただいていると思っております。まだ私も詳しい説明について伺っておりませんので、明確なお答えができなくて申し訳ないんですが、全体としてはそれぞれの市の方でのPR、弁護士の先生方のPR、それから例えば地域の民生委員さんを始めとするPRを、知らない方が多いですから、まずそれを進めていくのが一番かと思っております。

《参加者Gさん》

凄い高齢化していて、それが一番不安じゃないかと思うんです。子ども達のこともちろんですが、この地域も高齢化して来ているのでその時に自分の財産とかを守るのに、成年後見制度もどんどん取り入れて、市民後見人も和気町の方では第一人目がされるようになったと思いますが、岡山市、倉敷市もいろんな所で成年後見制度の在り方の講座もやっていますので、よろしくお願い致します。

《市長》

成年後見制度。つまり子どもさんであれば親の保護があるんですが、例えば介護とかでなかなか自分の意思が発揮できなくなられた方について、大人の方でも誰かちゃんと財産を管理して下さる制度ができるようにということだと思います。公民館の講座とかをもっと知っていただけるようにしないといけないと思いました。もっと議論を高めていく必要があると思います。

《参加者Hさん》

直接昨年も市長宛に手紙を出したことがあって回答文も帰って来ました。けどよく確認したら実際には市長の目に届かず、総務か広報かが自分の所で勝手に開封して市長の印鑑を押して送付したと。一人一人の回答は市長も忙しくてできないと聞いて、とりあえずこうしたらいいんじゃないかという、私の気持ちを福祉課或いは保健福祉推進課に、自分の知恵を絞って言います。

私は御覧の通り、目も不自由で膠原病やいろんな病気を持っていますが、まだまだ自分なりに動ける自信があります。けど、今お恥ずかしいんですけど皆様の血税で生活保護で生活をさせていただいています。何かのお役に立ちたいと一生懸命頑張っているんですが、福祉課に言ってもNG、保健福祉推進課に言ってもNG。

つまり私は生活保護者が甘えすぎているんじゃないかと。私は確かに贅沢はしていません。今こういう身体になって初めて分かったんですが、衣食住、病院も無料で、明日に不安がないというのが一番幸せなんだと思うんです。本当に私は感謝しています。私もまだ

まだ立つこともできるし、ある程度のことはできるんじゃないかと。何か恩返ししてやるんだと常々保健福祉推進課にお願いするんですけど、すべてNGです。私も決して楽じゃありませんけど、すればできるんです。一人千円の募金を保健福祉推進課にお願いしたら「駄目だ、受け取れない」と。駄目なんですか。

《市長》

せっかく書いてきて下さっているので、私が頂いて帰ります。

今日さん生活保護とご自分で言われておりましたけど、いろんな事情で保護に行かれて身体がご不自由な点もある。その中でも、社会に貢献できることをしていきたいということで、大変ありがたいことだと思いますので、貴重に拝読させていただきます。

《参加者Iさん》

市長さんはずっと子育ての方に力を入れて来られているので凄い素晴らしいと思うんですけど、倉敷市にも連島の辺りも凄く高齢化が進み、うちも88と86の両親と一緒に暮しているんですが、介護保険等を使ってデイサービスに行けることもあるんですが、家庭で家族が介護しているパターンも多くて、そういう場合の補助や、倉敷市は他に比べて市民税とかもちょっと高かったりとかその分、補助を。

社会の流れとして子育ての支援は凄くされていると思うんですが、子どもや高校生に一律いくらとか、それも凄い素晴らしいとは思いますが、だんだん年寄りを抱えて、家で見ている人への税金の補助とかも頭の片隅に残していただけるとありがたいと思って。子育ても本当に大変だし補助も大事だと思うんですけど、今まで頑張って来たお年寄りを、一生懸命見ようと思っている人も結構いると思うので、そういう人のことも片隅に置いて欲しいと思います。

《市長》

決して市民税が高いわけじゃありません。これは全国一律でございます。最近、市によって例えば名古屋の河村市長さんが「10%下げます」とテレビで言われます。名古屋であれば、今ちょっと厳しいですけど、トヨタさんがあって市が物凄い儲かっているんです。トヨタ自動車から莫大な税金が入って、国からの交付金をもらっていない市なので、そういう市が住民税を下げるのは一つの方法かも知れませんが、ただ税金というのは基本的には私は全国一律であるべきだと思うんです。どこでも所得税でも住民税でもそうだと思いますけれども、それを払ってそれに基づいて行政サービスをしておりますので、基本的にはどこも一律でございます。それをどこに市の施策としてやっていくかということで、今、人口減少社会になって来ておりますので、子育てのことにまず力を入れてやっていきたいという今の私の政策ですけど、今Iさん言って下さったように、年を重ねられた方に対する福祉の面をもっと充実をしていきたいと思っている所ですが、市だけでできる所と国の制度との関係の所とありまして、非常に人数も多くて市独自の制度をなかなか踏み出しにくい所もあるのは事実なんです。ただ子育て、防災に次の世代に力を入れると言ったら、やっぱり私は年配の方に対する福祉のサービスをもっと充実できないかと考えております。貴重なご意見をいただきまして本当にありがとうございます。今後ともできればどの世代の方にも元気で頑張っていだけるように、またお家にいらっしゃっても地域の子供さん

たちとも交流できるとか、わざわざ介護施設だけに行かなくても、家の中とかでも地域の人も交流できるような施策等できないだろうかとも考えたりしておりますが、大変重要な課題だと思っております。

今日は朝早くから寒い中、またクリスマス年末近い中、お越し頂きまして本当にありがとうございます。当地区には優秀な支所長もおりますので、何かありましたら、なくても結構でございますが、支所の方へもお越し頂きまして、市の施策についていろいろご意見も頂きたいと思っております。本当にいつもお世話になっており、ありがとうございます。皆さんお揃いで来年良い年をお迎えになられますことを心から願ひまして、今回の市民ふれあいトーク、終了とさせていただきます。本当にありがとうございました。